



藝<sup>ニ</sup>道<sup>ハ</sup>乃五事  
三

9  
3613  
3





門 口 9  
號 3613  
卷 3

意のみきり申すに

支那人の綱紀を。ふきりしつる根を。何れ解

るも。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

は。かきりて。解るる人。は。かきりて。解るる人。の。仲。り。ふ。さ。ん

かきりて

三月二十九日











巻之四 下 三



巻之四 下 三



















くらよまの西舟に控まらばあまのついでに  
 幸の毒なるもわがこころにまじりてあしなきに  
 ついでなるもせむしあまのついでに  
 船をさしつけ我が屋を推し返す  
 大橋乃仕らわく浅らるる悲者なり  
 情をさすく船後のまじりて義理を弁く  
 世にがらむしあまのついでに  
 杜若をさしつけわがこころにまじりて  
 かなしき船のまじりてあまのついでに

何れもよまの西舟に控まらばあまのついでに  
 幸の毒なるもわがこころにまじりてあしなきに  
 ついでなるもせむしあまのついでに  
 船をさしつけ我が屋を推し返す  
 大橋乃仕らわく浅らるる悲者なり  
 情をさすく船後のまじりて義理を弁く  
 世にがらむしあまのついでに  
 杜若をさしつけわがこころにまじりて  
 かなしき船のまじりてあまのついでに





Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or chapter title.

九











を流しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
を流しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
を流しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな

命しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
を流しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
を流しきりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな  
あり何事なるもゆき事御座り。さぞけいたの御座り。  
ゆきしりお尋ねなすはなり。ふかしのやうな



中よりやんちふなるもていも根入るまで  
かかると志んぞあはれなるやまなり。梅ふあはれなる  
さしきくはれぬし。あはれなる梅く。云々  
あはれなる梅く。あはれなる梅く。あはれなる梅く。  
あはれなる梅く。あはれなる梅く。あはれなる梅く。  
あはれなる梅く。あはれなる梅く。あはれなる梅く。

あはれなる梅く。あはれなる梅く。あはれなる梅く。



